

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシク

no. **25**

かわさき
 防災広報紙

昭和61年8月31日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841



必要なのでしょうか

自主防災組織が

どうして

〈そのとき〉に備えて

いま、もし大地震が起きたとしたら、わたしたちの町はどうなるのでしょうか。

電話が不通になったり、道路の通行が困難になったり…とりわけ、水道管の破損や停電によって、十分な送水ができなくなってしまう。そんなとき、火災があちこちで発生すれば、消防隊の活動が制限され、消火活動が十分に行えなくなります。また、多数のけが人がでると、救急車についても、日ごろのような活動が期待できません。

大地震直後のこのような状況の中で、自分たちの町は、自分たち自身で守っていかなければなりません。〈自主防災組織〉は、そのために必要なのです。

〈自主防災組織〉は、行政の応急活動に先がけて、災害に対してみんなで力を合わせて立ち向かうための組織です。地域ぐるみで、出火の防止やわが家の安全点検、となり近所の協力体制などの日常活動によって、連帯意識を高め、ひとたび、災害が発生した場合、〈自主防災組織〉の活動は、ふだんの訓練で得た知識や技術を、すばやく、安全に、かつ組織的に実行しなければなりません。

このように、〈自主防災組織〉の充実は、わが身を守り、地域を守ることになるのです。

みんなで、備える

1986 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

自主防災組織

災害に強い

街づくりのために

自主防災組織の結成

町内会・自治会の消防部等の組織を整備して、自主防災組織をつくる。

平常時の活動

① 防災意識の啓発
▼各家庭で火を出さないこと、家具類などが転倒、落下しない工夫をしてもらう。

② 防災訓練
▼防災活動に必要な知識、技術の習得をしてもらう。

③ 防災資器材等の備蓄
▼情報連絡、初期消火などの防災活動をするのに必要な資器材を備えておく。

災害時の活動

① 情報の収集および伝達
▼情報は、災害情報を正確に早く収集し、地域住民へ伝達する。

② 出火防止・初期消火
▼消火班は、出火防止の呼びかけ、情報班と連絡を密にし、火災の初期消火に努める。

③ 避難誘導
▼中心的役割は自主防災組織が担当しなければなりません。

④ 救出救護
▼救出救護班の安全を図りながら、資器材を活用して救出を行う。

⑤ 給食給水
▼炊き出しなどの給食活動をする。▼応急物資・応急給水等を計画的に配給する。

▼防災集会、防災映画会などを定期的にを行う。
▼火気使用設備器具等の点検
▼火を使う設備器具の故障や欠陥、周囲の整理整頓のチェック。
▼石油、食用油、スプレーなど可燃性の危険物品の安全管理のチェック。
▼集合場所に集まり、市の指定した避難場所（任意避難地域）に避難するのに必要な指示・誘導をする。
▼必要な場合、医療機関または一時救護所へ搬送する。



自主防災組織リーダー研修会開催!

7月30日(水)に麻生区で(自主防災組織)のリーダーの方を対象とした研修会が開催され、映画上映、防災についての講演、質疑応答が行われました。他の区のリーダー研修会も、今後開かれますので、ぜひご参加くださるをお願いします。

体験談 その25

68十勝沖震災の記録から 八戸市提供

十勝沖地震 みんなは、ひびいてあった

とつぜんのことだった。いっしょんにして、東北地方を暗黒にしたあの地震。午前9時49分、私たちは、女子だけ体育館で3年生と体育をしていた。先生は、体操祭にしておどりを3年生に教えていた。私たちは休けいしていた。すると体育館がいっしょんゆれ動いた。私はさっき跳躍をしていたので気にならなかった。とつぜん「グラグラッ」というのと同時に体育館がはげしくゆれ動いた。ガラスなどは、今にもこわれそうな音を出し、バスケットのゴールは、落ち

てきそうにゆれた。私は、とつさのことなので、数秒間は、まばたきもせず、バスケットのゴールを見つめていた。でもあまりにもはげしく、立っていられなくなりました。みんなで先生のまわりを集まった。先生は、まさおになり、いっしょけんめい鍵をあげていた。その数秒間は、私たちがとつて、きょうふの数秒間だった。やつのことで戸があき、みんなわれさきとばかり、校庭になだれでた。見ると各教室から、げんかんから非常口から、つきつきに生徒たちが出て来た。みんなはひびいてあった。その間も、校庭にいる時も、なおゆれていた。私はうろたえる人をおしすすめ、できるだけ早く人数を数えた。先生に異常ありませんと報告し、地震がおさまるのを待っていた。一応おさまったが、ラジオで

※十勝沖地震
昭和43年5月16日、午前9時48分55秒発生
震源：十勝沖 マグニチュード7.9
死者49人、不明3人、負傷者330人

そのとき、その場でレッスン⑤ 「地震のとき、地下街にいたら」

● 停電になっても、非常照明灯がつくので、動揺しない。
● 30m以内に出口があるので、あわてないで警備員の指示に従う。
● もし火災を見つけたときは、火災の通報をするともに、近くの消火器などで初期消火に努める。

親と子の防災キャンプ

「親子で楽しみながら防災訓練を！」をスローガンに、今年も川崎市立新町小学校の子供たちは、7月26・27日南部防災センターで、親子キャンプを楽しみました。野外生活(キャンプ)と防災訓練とを結びつけ、テント張りの実習、炊き出し訓練(炊き出し袋を使用してお米を炊く練習)、地震体験(起震機による地震体験)、消火訓練(キャンプファイヤー終了後、消火器を使い実際に火を消し、消火器の使い方を練習)、大声訓練(大声をかけあう練習)、映画会(地震と私たちを上映)などさまざまなことを実施しました。新町小学校の先生、PTAなどみなさんの努力により、子供たちは楽しく防災について学習できたようです。みなさんも、休みを利用して南部防災センターで防災キャンプを、やってみてはいかがでしょうか。



●ご利用・ご見学のお問い合わせは
川崎市川崎区小田7-3-1
川崎市南部防災センター
TEL=355-2175
交通=国鉄川崎駅東口9番バス乗り場
臨港バス 富士電機「小田小学校前」下車 徒歩6分